

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2020

課題番号：19K13050

研究課題名(和文)芥川龍之介の遺稿調査と自殺に関する自己表象の研究

研究課題名(英文)A Study of Ryunosuke Akutagawa's Manuscripts and Self-representation of Suicide

研究代表者

小谷 瑛輔(KOTANI, Eisuke)

明治大学・国際日本学部・専任准教授

研究者番号：10753618

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「人を殺したかしら？」と呼ばれる芥川龍之介の遺稿群に関して、次のことを明らかにした。

【1】当該の遺稿は、芥川自身の手によって2～3種類またはそれ以上のバリエーションを持った形で残されたということ。【2】それらの一部は散逸し、残存しているものも複数の資料所蔵施設に分散しているということ。【3】生前に芥川自身、周囲の関係者にたびたび独特の形で顕示していたことの意図。【4】原稿管理者であった葛巻義敏の「復元」作業において単に原型を復元する目的とは明らかに異なる目的で編集された痕跡。【5】その「編集」に関する傾向や方針を一定程度推定可能であること。

研究成果の学術的意義や社会的意義

芥川龍之介の自殺は、「大正文学の終焉」、あるいは「昭和文学の始まり」を告げる出来事として文学史上で記述されることが多く、日本文学の最も重要なトピックの一つだが、そのイメージが、作家本人によってどのように表現が試みられ、死後どのような力学が働くことによってその後のイメージ形成に繋がったのか、あるいはイメージ形成の可能性が抑制されたのかという点について、従来持たれてきたイメージとは大きく異なる実態があったことを明らかにした。このことは、日本文学のイメージ形成のあり方に関して根本的に考え直す必要があることを示す事例となるだろう。

研究成果の概要(英文)：We have clarified the following about a group of Ryunosuke Akutagawa's manuscripts called "Did I Kill a Man?".

(1) The manuscript in question has two or three or more variants. (2) Some of them have been scattered, and those that remain are scattered among several institutions. (3) The intention of what Akutagawa himself often manifested in a unique way to the people around him before his death. (4) Traces of editing by Yoshitoshi Kuzumaki, the administrator of the manuscript, for purposes clearly different from those of simply restoring the original form in his "restoration" work. (5) It should be possible to estimate to some extent the trends and policies regarding its "editing".

研究分野：日本文学

キーワード：日本文学 芥川龍之介 自殺 自己表象 自筆原稿

1. 研究開始当初の背景

芥川龍之介の自殺をめぐる研究は、「作家の意図」の検討を回避する研究潮流の流行などにより、長らく停滞傾向にあった。しかし、研究代表者自身も登壇者として招聘された2015年のシンポジウム「昭和十年代の「芥川龍之介」」において、自殺の表象が様々な主体の関与によって生産されていった経緯やそのイメージが後に与えた影響を歴史的なものとして実証していくアプローチの有効性が確認されたことにより、改めて注目されることとなった。応募者は、そこでの口頭発表を契機として、いくつかの論文に研究成果を発表してきた。

特に重要なのは、遺稿が全集で公開されるにあたって、遺族の葛巻義敏によって文章の趣旨の一部を分かりにくくするような一部原稿の非公開化の判断・断片化・加筆などを含む積極的な編集がなされていた痕跡が特定の遺稿に関して解明され、作家のイメージにとってマイナスに働きかねない要素を制御する原稿管理者・編集者の意図が明確になってきたことである。これにより、芥川龍之介の遺稿の一部については、全集本文が信頼できることを前提とした分析では根本的に不十分であることが明らかとなり、影印や翻刻ではなく遺稿の現物の実見調査を伴う、遺稿管理者による編集の痕跡の分析が必要であることが分かってきた。

2. 研究の目的

本研究の主要な目的は、下記の点を明らかにすることである。

- (1) 芥川龍之介は自殺に際してどのような自己表現を残したのか。従来知られてきたより多様な表現が試みられていたことが判明しつつあるが、それはどのようなものであったのか。
- (2) 芥川自筆原稿を管理していた遺族の葛巻義敏による遺稿への関与は、どのような方針において行われ、具体的にどのような“編集”が加えられたのか。
- (3) 作家の自殺に関するイメージが展開していくメカニズムは、単に「作家の自己演出」として捉えるのでも、「後世の読者の解釈次第」と捉えるのでも不十分であることが明らかになりつつある。そこにはさらに原稿管理者や全集編集者など第三の主体の意図も大きく関わっていたが、これらの力学を新たにどのように理解するべきであるか。

3. 研究の方法

- (1) 芥川龍之介自筆資料の多くが寄贈された山梨県立文学館の所蔵資料、これまで調査されてこなかった藤沢市文書館「葛巻文庫」所蔵の自筆資料を調査する。
- (2) また、芥川龍之介の自殺直前の言動について、当人の証言や周囲の人物の証言から再検討する。
- (3) 芥川没後の作家神話の生成を多角的に検討する。

4. 研究成果

本研究では、「人を殺したかしら？」と呼ばれる芥川龍之介の遺稿群に関して、次のことを明らかにした。

- (1) 当該の遺稿は、2~3種類、あるいはそれ以上のバリエーションを持っていたこと。
- (2) それらの一部は散逸し、残存しているものも複数の資料所蔵施設に分散しているということ。
- (3) 生前に芥川自身、周囲の関係者にたびたび独特の形で顕示しており、その意図が一定程度推定可能であること。
- (4) 原稿管理者であった葛巻義敏の「編集」作業に関して、単に原型を復元する目的とは明らかに異なる目的で行われた積極的な「編集」の痕跡が多数指摘できること。
- (5) その「編集」に関する傾向や方針を一定程度推定可能であること。

芥川龍之介の自殺は、「大正文学の終焉」、あるいは「昭和文学の始まり」を告げる出来事として文学史上で記述されることが多く、日本文学の最も重要なトピックの一つだが、そのイメージが、作家本人によってどのように表現が試みられ、死後どのような力学が働くことによってその後のイメージ形成に繋がったのか、あるいはイメージ形成の可能性が抑制されたのかという点について、従来持たれてきたイメージとは大きく異なる実態があったことを明らかにした。この

ことは、日本文学のイメージ形成のあり方に関して根本的に考え直す必要があることを示す事例となるだろう。

主要な成果については、2020年12月20日に開催された国際芥川龍之介学会第15回オンライン大会で「芥川龍之介の遺稿「人を殺したかしら」の諸問題」として口頭発表した。この研究成果については、後日論文として発表予定である。

また、「芥川龍之介「羅生門」の教材としての未来」(『富山県高等学校教育研究会国語部会研究紀要』2020年)では、神話化の結果として芥川龍之介の作品が国語教科書の定番教材となった経緯をまとめ直し、これまでの扱われ方や、現在進行している教育改革を経て今後どのように扱われるかを検討し、国語教育を通じて芥川龍之介が「日本文学」を象徴するイメージを担うあり方について、過去・現在・未来にわたって通時的に論じた。

さらに、芥川龍之介が後の世代の作家によって神格化されていった過程を検討するため、異なるジャンルに属すると見なされることの多い江戸川乱歩を例に明らかにした。この成果は、さいたま文学館『没後55年記念 江戸川乱歩と獵奇耽異』図録に寄稿した「乱歩の原点 芥川龍之介は探偵小説作家か」に反映されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小谷瑛輔 | 4. 巻 58 |
| 2. 論文標題 芥川龍之介「羅生門」の教材としての未来 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 富山県高等学校教育研究会国語部会研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 19-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 小谷瑛輔 |
| 2. 発表標題 芥川龍之介の遺稿「人を殺したかしら」の諸問題 |
| 3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS（国際学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 さいたま文学館 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 さいたま文学館 | 5. 総ページ数 24 |
| 3. 書名 没後55年記念 江戸川乱歩と獺奇耽異（担当箇所：「乱歩の原点 芥川龍之介は探偵小説作家か」） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号） | 所属研究機関・部局・職 （機関番号） | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|